

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に 現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

久泉鶴雄

アブストラクト

英語には断定文と非断定文の区別があるが、断定文に用いられる限定詞、副詞類、代名詞その他の項の中には、意味的に対極に位置する非断定文では異なる項に変化するものがある。英語とほぼ底層の意味が共通な日本文ではその意味的なコントラストがどのような項となって表現されるのかを、最も基本的な副詞類である *already* と、*any longer* などを資料に比較対照し、合わせて非断定文に固有に現れる項が対極的な断定文ではどのような項に対応しているかを検証した。

はじめに

本稿では、英語の否定平叙文とそれ以外の非断定文に固有に現れる項（例えば副詞類の *any longer*）を非断定文の固有の項と呼び、それに並行的に存在する肯定平叙文に固有に現れる項（例えば副詞類の *already*）を断定文の固有の項と呼ぶ。この一組の項はお互いに対極的な意味関係に立つものである。

肯定平叙文と否定平叙文を比較対照する場合には、意味的に対極的な関係に立つそれぞれの項を Huddleston and Pullum (2002) にならって

PPIs (positively-oriented polarity-sensitive items の略)

NPIs (negatively-oriented polarity-sensitive items の略)

と呼ぶ。

本稿で扱う主な言語資料は現代イギリス英語であるが、随所でアメリカ英語にも触れている。セクション 1 では英語の断定文と非断定文に現れる固有な項のすべてを扱うのではなく、**already** や **any longer** など典型的な副詞に限定し、対応する日本語の表現と比較対照し、日本語の特質に注意を払おうとするものである。

日英語を比較対照する場合、英語の非断定文に現れる固有の項には、副詞、限定詞、代名詞、前置詞、接続詞、法助動詞、単一動詞、連語動詞があるが、このような語類がすべて日本語の語類に対応するとは限らない。重要なことは英語に対応する日本語の項がたとえどの語類であれ、日英語を比較対照した場合の共通点と相違点とを明らかにすることである。

記述の順序としては、最初に英語の断定文の項と非断定文の項に対応する日本語の項を例文を使いながら総覧の形で示し、そのあとで不足点を補筆する。日本語特有の項を挙げる場合は、語義を一括表示することなく、ただちに例文をあげ、その文脈にあてはまる類語を例文の中で示すことにする。

1 英語の 断定文、非断定文に固有な項としての **already**、および 非断定文に固有な項としての **any longer**、**any more** に対応する日本語の項

英語の断定文と非断定文に現れる **already** と、非断定文の文脈にのみ現れる **any longer**, **any more**, (米語) **anymore** に相当する日本語の項について、比較対照することにする。

1.1 英語の断定文に固有な項としての **already** に対応する日本語の項

英語の断定文の項としての **already** は肯定平叙文のみに現れるのではなく、稀には否定平叙文にも現れることがあり、肯定疑問文、否定疑問文、条件節その他の非断定文の文脈にはしばしば現れる。そこで、それぞれの **already** が対応する日本文でどのような項にあてはまるかを検討していく。

① 断定文に固有の項としての **already** に対応する日本語の項

- (i) ある動作・行為・活動が過去に行われていたことを意味する **already** に対応する日本語の項。

(1a) これは私が [もう、既に、もう既に、既にもう、以前に、もう以前に、以前にもう、前に、もう前に、(文語) もはや、かねて、(口語) とっくに、もうとっくに] あなたに述べたことです。

(1b) That is what I told you already.

(2a) 徳川幕府は [もはや (文語), かねて (文語)] 開国を決定していた。

(2b) The Tokugawa Government was already determined to open Japan to the West.

注意: 以上の類語には、英語と異なり、口語表現として「とっくに、もうとっくに」があり、感情的色彩として「自慢気な様子や得意の気持ち」が加味されている。

- (ii) あることがその時点でもうその状態になっていること、即ち、或る事態に立ち至っている有様を表す **already** に対応する日本語の項。

(3a) 彼は [既に、もう、既にもう、もう既に、もはや、既にもはや、もはや既に、今や、(口語) とっくに、もうとっくに] 大人だ (=もう子供ではない)。

(3b) He is already a grown-up.

(4a) 急ぎなさい、[もう、もう既に、既にもう、今でも、もう今でも、今でさえ、もう今でさえ、〔文語〕今ですら、もはや今ですら] 遅いくらいだから。

(4b) Hurry up, it's already late.

日本語には感情的色彩として非難または批判的な気持ちが込められている。

- (iii) あることが動かしがたい事実であることを表す **already** に対応する日本語の項。

(5a) このことは [既に、もう既に、既にもう、現に、どう見ても] その国が権威を失墜したことを示している。

(5b) This already shows you that that country suffered an extreme loss of face.

(iv) 程度が限界に達していることを示す *already* に対応する日本語の項。

(6a) あたりは [既に、もう既に、既にもう、すっかり、まったく] 深い霧に包まれていた。

(6b) The area was already covered in a dense fog.

(v) ある事態が近づいていることを表す *already* に対応する日本語の項。

(7a) [もう、もう少しで、今にも、もう今にも、まもなく、もうまもなく、じきに、もうじきに、やがて、もうやがて、ほどなく、もうほどなく、そろそろ、もうそろそろ] 真夜中というそのときに門がカチン鳴るのが聞こえた。

(7b) It was already midnight, and I heard the click of the gate.

② [米語] 断定文の項として特に命令文の文末で、「いらだち」や「せきたてる気持」などを表す *already* に対応する日本語の項。

(8a) [さあ (口語)、さあもう (口語)、(さあ) 早く、さっさと (口語)、もうさっさと (口語)、もう] やって (やりなさい)。

(8b) Do it already.

③ [米語] 短縮された断定文の文末の項として「うんざりした気持ち」を表す *already* に対応する日本語の項。この感情的色彩は日英語に共通に存在する。このような文章を短縮せずに表現する場合、*already* は文末に置かれず、主動詞の前に移動する。

(9a) [もう、全くもう] たくさんだ。

(9b) Enough already! < You have already said enough. / I have already heard enough.

④ [米語] [俗語] 断定文の項として承諾したことを強調する *already* (=

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

Okay! / I understand) に対応する日本語の項。感情的色彩として「苛立ち」を表す。日本語の口語表現、「ああ、わかったよ。」「わかったってば。」に相当する。

(10a) 親：自分の部屋を片付けなさい。息子：はい、はい、はい。

親：聞いているの？ 部屋を片付けなさいってば。息子：

[ああ、わかったよ、わかったってば] やるよ、やるよ。

(10b) Parent: I want you to clean your room! Rude Child: Yeah, yeah, yeah

--- Parent: Did you hear me?! I want you to clean your room! Rude

Child: Alright already, I will, I will!

以上のごとく、英語の *already* に相当する日本語の項は「もう」、「既に」、「もう既に」その他多数で、英語に比べればおびただしい数である。その中で代表的な「もう」と「既に」が殆んどの *already* に対応しており、当てはまらないケースはない。

1.2 非断定文としての肯定疑問文、否定疑問文に固有な項として現れる *already* に対応する日本語の項

- ① 非断定文である肯定疑問文の「意外さ」、「驚き」を示す *already* に対応する日本語の項。

(11a) [もう、おや (口語)、おやもう (口語)、こんなに (も) 早く] パスは出てしまったのですか。

(11b) Has the bus left already?

注意：英語ではあらかじめ完了が予期されていたことを確かめるには *already* ではなく *yet* で肯定疑問文をつくる。

(12a) 私はルームメイトが朝飯を済ませたと思ったので、彼女に「[もう] 朝飯 (を) すませましたか」と確かめた。

(12b) I thought my roommate must have finished her breakfast, so I checked with her by asking, “Have you finished breakfast yet?”

ただ、yet を使って確認する場合の疑問文には上述のような肯定形もあるが、否定形もある。それは例えばある女性がある時点で到着すると話者が期待していたのに、到着していないという証拠を得たので驚いて、それを確かめるために、次のように尋ねる場合である。

(13a) (えーっ) 彼女は未だ到着していないんですか？

(13b) Hasn't she arrived yet?

ここでは yet は否定疑問文の中で「まだ」という意味である。疑問文だからといって、機械的に「もう」という意味にはならない。

yet について更に言葉を加えると、次の会話では P1 の二番目のせりふにある yet は否定文の中にあるけれども「未だ」という意味ではなくて、「もう」という意味である。

(14) P1: He isn't up already, is he?

P2: Yes, he is.

P1: Oh, I didn't think he was up yet.

P2: Well, he is.

P1 の二番目のせりふの中の yet は 'he was up yet' という節にあって 'up' を修飾し、already の意味であるが、主節の not の支配領域が think の目的節にまで及んでいるため、この yet を already に変えるわけには行かない。

② [米語] 非断定文である否定疑問文において「驚き」や「意外性」を表す already に対応する日本語の項。

(15a) [まさか、まさかまだ、こんなに (も) 早く (は)、こんなに早いのに] バスは出てないでしょう (ね)。

(15b) Hasn't the bus left already?

注意：(1) 否定疑問文の already の「まさか未だ、こんなに早いのに」という

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

意味には、意外感に加えて、「そんなことはないでしょう」という打消しの意味が言外に込められている。(2) この語義では、単独の「もう」という項は使えない。

- ③ 米語の用法。非断定文である否定疑問文に現れる **already** に対応して感情的色彩である苛立ち、焦燥感、フラストレーション（欲求不満）、批判、批難などの気持ちを表した反語表現、とそれに対応する日本語の項。
発言の前提として **You should have done such and such but ---** という相手に対する批判的な気持ちが話者の側にある。

(16a) (そうすべきだったのに) 窮地に追い込まれたこの人たちはなぜ、
どうして[きちんと、(口語)ちゃんと、もうちゃんと、ちゃんともう]
それを克服して毅然として舞台を後にしないのか？

(16b) **Why don't these dead-enders get over it already and exit stage right? =**
Why don't these dead-enders just get over it --- ? [この文の発話者は
These dead-enders should have got over it already. と考えている。]

注意；もし、**already** に代えて **yet** を使い **Why haven't these dead-enders got over it yet?** と言うと、**yet** は「未だ」という意味で、(16b) のような反語表現ではなくなり、苛立ちなどの感情的色彩も消えて、単に理由を尋ねる普通の疑問文になる。

- ④ 非断定節である条件節に固有に現れる **already** に対応している日本語の項。ここで口語体は特に完了の意味を強調する。

(17a) もし彼が[もう、既に、もう既に、既にもう、(文語) もはや、とっ
くに(口語)、もうとっくに(口)] 仕事を終わったのなら、私
たちはすぐに出発できる。

(17b) **If he has already finished his work, we can leave immediately.**

注意：日本語の条件節の場合は、英語の断定文の **already** に対する日本語の項とほとんど共通の項を用いて完了、達成、結果の意味を表すが、一部の項、

即ち「以前に、もう以前に、以前にもう、前に、もう前に」だけは(17b)のような条件節にはあてはまらない。もし用いると *already* が過去に行われた動作・行為に言及する意味に変わり、今しがた終わったことに言及する(17b)のような条件節の完了・結果の意味に合わなくなってしまうからである。

これまでに述べたことを見直すと、1.2の①の「疑問文の *already* の用法」に対応する日本語の項には「もう既に」だけではなく、「もうこんなにも早く」という項が存在することが注目を引く。*already* に対応する日本語の項を調べると、日本語の方が文脈に適したより多くの項を持ち、その分、表現力が豊かである。

このような意外性を表出する日本語の疑問文では、「もうこんなにも早く」という項ではなく、「もう」という項だけが選択された場合は特に、第一音節に強い文強勢を置き、文末を下降調で発話することによって驚きの意味を加味することが可能である。「もう」に文強勢を置きさえすれば、文末が上昇調でも同じ感情的色彩を加味することはできるが、どちらかと言えば、下降調の方が劇的でストレートに驚きの感情を表出する。

「もうこんなにも早く」は「もう」のあとに「こんなにも早く」という余剰な副詞句を追加することによっても、意味が更に強調されるのであるが、さらに「もう」で始まる動詞句の最後に「(---して) しまった」という動詞を付け加え、「もうこんなにも早く ---してしまった」という連語を作ることによって更に完了・結果の意味を強調することができる。

英語では、この *Did she see him already ?* という疑問文の *already* (=こんなにも早く) が、*She saw him already* という肯定平叙文の *already* (=もう既に) と意味的に峻別されるが、既に触れたもう一つの意味的対立である *Did she see him yet?* という疑問文の *yet* (=もう既に) と、*She saw him already* という肯定平叙文の *already* (=もう既に) とでは、対応する日本語の項が

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

共通である。ここでは、日本語に断定文、非断定文という文法的な区別がない。**already** も疑問文の **yet** も共に「完了・結果」の意味を持っているので日本語では「もう --- (してしまった)」という共通項を使うのである。英語では肯定平叙文の **already**「もう」が **unmarked** であるように、疑問文の **yet**「もう」は **unmarked** である。他方、疑問文の **already** は **marked form** で「驚き」や「意外性」を表すというわけである。そして、最後の疑問文の **marked form** としての **already** は、'The bus has left.' という肯定形と合わせ用いて疑問文にすれば「驚き」を表し、'The bus hasn't left.' という否定形と合わせ用いて疑問文にすれば、「強い意外性」を表すように文法規則として規則化されているのである。

最後に、英語の断定文の項と 非断定文の項を日本語と対照的に比べると、日本語の対応表現には感情的色彩が加味されることが多いといえる。

1.3 否定平叙文に **already** を許すことがほとんどない英文と、否定文に「もう既に」を許す日本語文の比較対照

これまで本稿で取り上げた範囲内では、否定平叙文に **already** が現れた例はないが、否定疑問文なら **already** が現れる場合が二つあった。それは色彩的効果として「まさか」と予期せぬ驚きを表す 1.2 ② の (15b) と、米語の用法の反語表現で「きちんと、ちゃんと」という意味の 1.2 ③ の (16b) とである。しかし、この二つは否定文であっても、疑問文であり、否定平叙文とは別物である。

そこで次に、否定平叙文に **already** が用いられる場合を検討することにする。この場合、興味深いことに 1.2 ② の (15b) と意味は同じ「まさか」である。そして文末に付加疑問文を伴い、聴者に確認を求めている。

(18a) 彼は [まさか、まさかまだ、こんなに早く、こんなに早いのに、もう] 起きているのではないだろうね。

(18b) He isn't up already, is he?

ほとんどの場合、英語の肯定平叙文では *already* が用いられ、否定平叙文では *yet* が用いられるのであるから、(18b) のように否定平叙文に *already* が用いられるのは一つの驚きである。そしてこの文体は話者の期待がはずされたことに対する驚きを表す点では *already* を伴った否定疑問文と同じである。

否定平叙文で *marked* の *already* を提示することによって聞き手の注意を引き、話者は「まさか」という感情的色彩を鮮明にしているものと考えられる。

それでは、否定平叙文に現れる *already* はすべて話者が期待していたことに反する驚きを表現する特殊用法の文なのであろうか？以下の文を見ると、この判断は間違いがないと考えられる。

(19a) He hasn't grown-up already, has he?

(19b) えっ、まさか、あの子がもう既に大人じゃないでしょうね？

(20a) He's not an expert already, is he?

(20b) 彼がまさかもう既に専門家じゃないでしょうね？

(21a) He's not a father already, is he?

(21b) まさか彼がもう既に父親じゃないでしょうね？

(22a) He hasn't got five kids already, has he?

(22b) まさか彼にもう既に子供が五人もいるんじゃないでしょうね？

(23a) My girlfriend hasn't left already, has she?

(23b) ぼくの彼女がまさか帰ってしまったんじゃないでしょうね？

(24a) He's not nervous already, is he?

(24b) まさか彼はもう既に今からびりびりしているんじゃないんでしょうね？

(25a) He hasn't solved it by himself already, has he?

(25b) まさかあの子が自分独りでそれを解いたんじゃないでしょうね？

(26a) Prices haven't risen already, have they? / Prices aren't up already, are they?

(26b) まさか！物価がもう上がったんじゃないでしょうね？

否定平叙文におけるこの *already* は、時と場合により、驚きだけではなく「いらだち」や「憤慨の情」を表すこともある。例えば、朝、共稼ぎの夫に大切なことを出掛ける前に言おうと思いつきながら、洗面所に行って戻って来ると、もう音もなく夫は出かけてしまっていたとすると、

(27a) He hasn't left home already, has he?

(27b) あきれた、まさかもう出かけちゃったんじゃないでしょうね！

と言うが、このせりふは十分憤慨の情を表している。なお、このような驚きを示す否定平叙文の *already* は文中には置かれず、文末に置かれる。

ひるがえって *already* に対応する日本語の「既に」、「もう既に」と否定平叙文との整合性について考察してみよう。

日本語では英語と異なって「既に」、「もう既に」と「--- ない」の連語関係は英語に比べて許容される範囲が非常に広い。そのことを構文別に以下に検証して点線部に位置する表現、特にそこに選ばれる語類がこの連語関係の成立、不成立に関与しているかどうかを調べてみることにする。

(1) 存在を意味する自動詞構文。

- (28) その小惑星は既に存在しない。
- (29) その品目については既に輸入規制がない。
- (30) その法案については既に問題がないことがわかっている。
- (31) 父はもう既にこの世にいない。
- (32) つぼの中に砂糖はもうない。
- (33) その子供は既に死ぬおそれはなかった。

(2) 「--- ではない」で終わる構文で点線部が名詞である場合。

- (34) 彼はもう子供ではない。(彼はもう大人だ。)
- (35) 彼はもう学生ではない。(彼はもう既に社会人だ。)
- (36) 日本は既に経済大国ではない。

- (3) 「--- ではない」で終わる構文で点線部に位置する動詞が名詞化されている場合。

(37) もうこれは脅しではない。(もうこれは既に犯罪だ。)

(38) 今度はもう彼女の負けではない。(今度はもう彼女の勝ちだ。)

- (4) 「--- く (は) ない」で終わる構文で点線部が形容詞の場合。

(39) 彼女はもう既に若くはない。(彼女はもう既に老人だ。)

(40) その力士はもう強くない。(その力士はもう既に弱い。)

- (5) 「--- て (は) いない」で終わり、点線部が精神活動を表す動詞の場合。

(41) 私は既に彼女を愛してはいない。(私は既に彼女を愛している。)

(42) 彼女は既にもう彼を憎んではない。〔彼女は既にもう彼を憎んでいる。〕

- (6) 「--- て (は) いない」で終わり、点線部が *stative verb* (状態動詞) である場合。

(43) わたしは既にもう寝ては入れられない。

- (7) 「--- て (は) いない」で終わり、点線部が *dynamic verb* (動作動詞) である場合。

(44) 私は既にもうこうしてはいられない。

(45) 彼は歳だからもう働けない。

(46) 敵は兵糧を断たれて既に手も足も出ない。

日本語では、ある命題を「もう (既に) / (既に) もう --- (な) 状態である」という連語の枠の中に入れることが可能であれば、それが上記の(1)から(7)までに見出されるどの命題であっても、またその命題の内容が肯定的でも否定的でも、そのほとんどが正しい表現となる。

(47) その小惑星は既にもう存在しない状態である。

(48) 彼は既にもう子供ではない状態である。

(49) これは既にもう脅しではない状態である。

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

- (50) 彼女は既にもう若くはない状態である。
- (51) 私は既にもう彼女を愛していない状態である。
- (52) ?彼は既にもう大人ではない状態である。
- (53) *彼は既にもう仕事を終えていない状態である。

このことの本質は何かというと、「既に（もう）」の意味が動作・行為の完了とそれによってもたらされる結果を暗示しているので、そのあとにその完了・結果の状態が引き続き述べられていれば、すべての陳述が成立することになる、ということである。これが日本語では「既に（もう）」が否定詞の「ない」ともなっても成立する理由である。

英語の場合は、already は特殊な場合を除き肯定の命題に使われることが文法的基準として定められており、それが unmarked であり、他方、any longer や any more が否定、疑問、条件節そのほかの特定の命題に使われることが文法的基準として定められている。従って、already が (15b) や (16b) のような否定疑問文で使われると、その already は marked となり聞き手の注意を引くと同様に、普段使われない否定平叙文に使われると marked form となり、聞き手の注意を引くことになるのである。

1.4 非断定文固有の項としての any longer, any more, (米語) anymore に対応する日本語の項

まず始めに、否定平叙文、疑問文、及び条件節の非断定文の項としての any longer, any more, (米語) anymore に対応する日本語の項を、文脈に応じて項目別に示す。

- ① 非断定文としての否定平叙文の any longer, any more, (米語) anymore に対応する¹⁾日本語の項は意味的に二つの系統に分かれる。その一つは「もう既に」であり、もう一つは「もうしばらく」である
 - (i) 「もう今では --- してはいいない」という否定的な内容で現在完了結果

の状態を意味する項。そのほとんどが肯定平叙文の *already* に対応する日本語の項、「もう既に」と共通である。²⁾

(54a) 彼女は [既に、もう、もう既に；とっくに (口語)、もうとっくに (口語)；もはや³⁾、今 (で) は、今はもう] 彼に会はないでいる [会ってはいない]

(54b) *She doesn't see him any more.*

(ii) 「もうこれからは(もうこれ以上は)--- しない」という否定的な意味で、未来への言及を行う項

(55a) 彼女は [(もう) これ以上 (は)、もうこれから (は)、これから (は) (もう)] 彼には会わない。

(56b) *She doesn't see him any longer.*

(57a) 私はそこへはもうこれからは滅多に行かない。

(57b) *I seldom go there any longer.*

(58a) 彼はもう働かない。

(58b) *He doesn't work any more.*

② 非断定文としての疑問文における *any longer*, *any more*, [米語] *anymore* に対応する日本語の項。

(59a) 君は僕を [もう暫く (の間)、まだしばらく、もう少し (の間) (は)、もうちょっと (の間) (口語)、少しでも長く] 必要としますか

(59b) *Do you need me any longer?*

注意：次の場合は単独の「もう」という項があてはまる。

(59b') *My mother wanted me to help her cooking dinner but she didn't call me for two weeks, so I rang her and asked,*

“Don't you need me any more?” --- [前略] そこで、私は母に電話をかけてこう言った、「お母さん、私はもういいの？」

この場合は、「お母さんは二週間も私に電話をしてこなかったんだから、

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

もうわたしのお手伝いはいらないの？」という意味である。

③ 非断定節としての条件節の *any longer*, *any more*, [米語] *anymore* に対応する日本語の項。

(60a) もし君が [もう暫く (の間)、まだしばらく、もう少し (の間) (は)、
もうちょっと (の間) (口語)、少しでも長く] やり続けると、疲
れ過ぎになりますよ。

(60b) *If you play any longer, you'll get overtired.*

注意：この語義の場合は、単独の「もう」という項はあてはまらない。

ここでは、英語の項と日本語の項とが明確な相違を示す点が大きな特徴である。即ち、英語では否定平叙文の項である *any longer*、*any more*、(米語) *anymore* は文脈に応じて変化し、二種類の意味のどちらかになる。その区別は意味解釈の問題である。 それに対応する日本語の項の代表的なものは現在の状況を示す「(現在は) もう --- していない」と、未来に言及する「(これからは) もう --- しない」との二系統に分かれる。日本語は英語のように単一の項が文脈に応じて意味解釈を変えるのではなく、互いに示差的な二種類の項を持ち、文脈に応じてそのいずれかが選択される。

上述の「(現在は) もう --- していない」という意味は、完了した結果である現在の状況に言及する点で、肯定平叙文の *already* の「もう既に --- しまっている」と共通で、現在の状況という共通の軸を持ち、そこを中心として、いわば「否定の現状」と「肯定の結果」という二つの意味に分かれている。

他方、「(これからは) もう --- しない」の方も現在の軸に立って、未来に言及し、反対に、肯定平叙文の *already* の「もう既に --- しまっている」は現在の軸から完了・結果に言及し、共に現在という軸を中心として否定の未来と肯定の結果とに袂を分かっている。

ところで、Huddleston and Pullum (2002) が第9章 *Negation* の Section 4 で分

析している肯定平叙文の *already* と否定平叙文の *any longer* との意味の対立は、「既にもうしてしまったこと」と「既にもうして (は) いないこと」の対立である。

She has seen him already.

She doesn't see him any longer.

言い換えれば、「してしまったこと」と「しなくなったこと」の対立であるということが出来る。各々の動詞を修飾する *already* と *any longer* は「もう既にしてしまった」と「もう既にしなくなった」との例からわかるように、共通して「もう既に」という意味である。これによって、日本語では肯定平叙文にも、否定平叙文にも「もう既に」という共通の項を用いることがわかる。

ところで一方、上の定義では触れなかったが、肯定平叙文の *already* と否定平叙文の *any longer*, *any more* には、周知のごとく、もう一つ別の意味の対立があるわけである。それは

I have finished my homework already.

You have not finished your homework yet.

との間に見られる意味の対立で、英語の *already* と *yet* とに対応して、日本語の項では「もう既に (完了・結果の意味)」と「未だ」(未完了の意味)とに分かれている。

疑問文と条件節における *any longer*, *any more* は肯定平叙文の *already* と、否定平叙文の *any longer*, *any more* と意味が異なり、両者共通に、「いくらでもいいからもう少し」という意味になっている。したがって、英語の断定文の項である *already* と非断定文の項である *any longer* と *any more* とに対して、それぞれ別に対応する日本語の項が存在しているということである。

2 非断定文の項としての any longer, any more, anymore [米語] と断定文の項としての still に対する日本語の項

1. 2①(i)で取り扱った非断言文に固有な項としての any longer, any more, [米語] anymore の意味は、[既に、もう、もう既に;とつくに (口語)、もうとつくに (口語);もはや、今(で)は、今はもう --- (していない)] という否定的な完了結果の意味であったが、その際、対照的に比較したのは肯定平叙文における already で、その意味は当然 [もう既に --- (してしまっている)] という完了・結果の意味であった。否定の文脈であれ、肯定の文脈であれ、両者の意味の対立は「もう既に --- しなくなった」と「もう既に --- してしまった」という完了相を基準にした対立である。

ところが、My brother is not at school any longer. のような非断定文に固有な項としての any longer, any more, [米語] anymore の意味は、My brother is still at school. の still が示すように、肯定平叙文の still [今でも、今もなお、あいかわらず、未だに] とも意味的対照をなしている。この両者の意味の対立は「今はもう --- していない」と「今でもまだ --- している」という継続相を基準にした対立である。

3 否定平叙文の NPIs の対極に位置する肯定平叙文の PPIs

ここでは、否定平叙文にもっぱら用いられる NPIs を中心に記述を進める。非断定文の NPIs に接したときに、直ちに対極にある PPIs が想起しにくいことがあるので、NPIs の意味と両極をなす肯定平叙文とその PPIs を類別して記述するように努め、対極をなす PPI が想定しにくい場合は否定平叙文のみに出現する NPI として最後に提示する。なお、このセクションでは経験的によく遭遇する NPIs と PPIs との組み合わせは極力省略に努めた。

限定詞

(61a) There was little chance anybody would come.

(61b) There was a good [considerable / favourable] chance somebody would
come.

否定を含意する語

(62a) John was reluctant [too lazy]to read any of the books.

(62b) John was willing / eager to read some of the books.

比較級構文

(63a) Freud contributed more than anyone to the understanding of dreams.

(63b) Freud contributed best of all to the understanding of dreams

副詞類

(64a) I seldom go there any more.

(64b) I would often go there. [現在と過去の対比]

(65a) I seldom go there any more.

(65b) I still go there [as usual, as always, as before] [頻度の対比]

(66a) He didn't wait so much as a week. 一週間さえ

(66b) He waited as much [long] as a week.

(67a) Japanese: I don't like rice at all.

British: Why ever not?

(67b) Japanese: I don't like rice at all.

British: Why on earth do you hate it?

(68a) It's not at all bad [like that] = It's not bad [like that] at all.

(68b) It's pretty bad.

(69a) It's no good at all.

(69b) It's absolutely great.

(70a) She isn't any different.

(70b) She is the same. (= She is no different.)

(71a) There was once such a time, and not so long ago either.

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

ある時のことだった、と言ってもそう昔のことではないが。

(71b) There was once such a time, and quite recently actually [in fact].

ある時のことだった、と言ってもごく最近のことだが。

この対比関係においては、一方の否定文の *either* と釣り合いをとるために、肯定平叙文の方では *and quite recently* と言うだけでは言葉足らずで、そのあとに *in fact* か *actually* のどちらかを言い足さないと釣り合いがとれない。

(72a) I hardly [scarcely ever] go to bed before midnight.

(72b) I almost always go to bed after midnight.

(73) I go to bed before midnight once in a long while.

(74a) He cannot so much as write his own name.

彼は自分の名前を書くことすらできない。

(74b) Writing his own name is about all he can manage.

彼は自分の名前くらいなら書けます。

(75a) We can't get him to say yes for love nor money. どうしても --- (ない)

(75b) We can get him to say yes with no trouble at all.

(76a) The monsoon doesn't last long.

(76b) The monsoon lasts a long time.

(77a) That can't possibly be true. どうしても --- ない

(77b) This will probably come true. または It is probably true.

動詞

(78a) A: John is really rude, isn't he?

B: Yes, and I can't abide rudeness.

(78a') A: I love my Physics lessons at school.

B: Oh, you're lucky. I can't stand my Physics teacher, so I hate my lessons.

(78b) I've got a lot to put up with.

- (79a) Another glass won't hurt you.
- (79b) I'll be unfit for work tomorrow, if I have another glass. / Another drink will prevent me from doing my work properly. / [Very formal] Another drink would adversely affect me.)
- (80a) It won't hurt to wait a while. 差し障りはない
- (80b) It will hinder us in our work, if you do so.
- (81a) It won't hurt to postpone the project a while.
- (81b) It would hinder us to postpone the project for a while.
- (82a) Not a soul was to be seen.
- (82b) I saw a crowd of fans trailing along behind the pop singer.
- (83a) I don't care what happens now.
- (83b) I worry about what may happen now.
- (84a) I don't care a bit [a damn, a straw, a button, a fig, a rap, a farthing, etc.] [口語] ちっともかまわない
- (84b) I am anxious about it.
- (85a) I don't care a farthing for your opinion. 全然問題にしない
- (85b) I am concerned about your opinion.
- (86a) He couldn't care less about trifling matters.
- (86b) He gets nervous about trifling matters.
- (87a) I don't care to do it today. 今日はそれをやりたくない。
- (87b) I would like to do it today.
- (88a) I do not know beans about it. [米語] [俗語] 少しも知らない。
- (88b) I know a little about it.
- (89a) The secondhand clothing is not worth a farthing[brass].
- (89b) The old painting found in the flea market is worth a lot.
- (89c) The old painting found in the flea market is of great [much] value.

否定形で用いられる常套句

(not) bother to do / -ing 「わざわざ --- しない」

(90a) He will not bother to come [coming] to see me this time.

(90b) He will come to see me all the way from Boston.

(91a) If you can borrow it from me, there is no need to bother buying it.

(91b) If you can borrow it from me, there's no need to go to the expense of
buying it.

can't be bothered 「わざわざ --- する気にならない」

(92a) I can't be bothered to see anyone now.

(93b) I am willing to see you now.

(94a) A: Are you going for a run this afternoon?

B: No, I can't be bothered. I'm feeling lazy.

(94b) A: Are you going for a run this afternoon?

B: Yes, I am.

(not) budge on --- [米語] 「に譲らない」

(95a) He wouldn't budge on his decision..

(95b) He often yields to temptation.

(not) budge --- 「ちょっと動かすこともできない」

(96a) The drawer is stuck and I cannot budge it.

(96b) I managed to move the drawer slightly.

(not) have a clue 「手がかりが (ない)」

(97a) We don't have a clue how to solve it. / We don't have any clues as to his
whereabouts.

(97b) There must be something that would give us a clue to the criminal's
identity.

対応する PPI が無い NPI

NPI と PPI とは対をなして何らかの意味で対照的な意味関係にあるが、対照的な意味関係にある命題を探り当てるのが困難な場合がある。以下にそのような NPI を提示することにする。そのような NPI は常套句となっている。

(98) He is a chap who wouldn't hurt [harm] a fly. 虫も殺さぬ男だ

(99) I haven't got two[half] pennies to rub together. 無一文である

(100) I haven't got a penny to my name. ぴた一文も無い

(101) I have not a penny to bless myself with. 私にはぴた一文もない

(102) No boxer can hold a candle to the champion. 相手ではない

(103) She didn't lift (raise) a finger to help her mother. 腰を上げない

(104) A: I bought a lovely bottle of wine last night, but Jane didn't touch a drop.

一滴も飲まない

B: Oh, I wonder if she's pregnant.

(105) A: Have you seen Jane recently?

B: No, I haven't seen her for ages. She has been too busy to meet up. ずっと

と --- (していない)

(106) A: That was a major operation you had done on your leg.

B: Yes, but I didn't feel a thing. The anaesthetic was great. 何も感じない

(107) I will never live down the fact that I spilt coffee all over my boss. 人に忘れさせない /

れさせない /

A: Did you hear that the singer fell off the stage during the concert?

B: Yes, she will never live it down.

(108) A: Did you buy your wife anything for Valentine's Day tomorrow?

B: Oh no, I forgot. I must get something today, or I will never hear the end

of it. ずっと愚痴を言われ続ける

(109) A: Did you hear John is gay?

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

B: Really? I would never have suspected he was gay in a million years. /
I would never have suspected in a million years that he was gay. こ
れまでに一度も --- (ない)

(110) A: Did you hear the storm last night?

B: Yes, I have never heard anything like it in my life.

(111) I had a stomach ache last night and so I couldn't sleep a wink. 一睡も ---
(できない)

(112) A: Did you hear that John went to X College?

B: Well that was a waste of time! A qualification like that isn't worth the
paper it's written on. 価値が^s (ない)

(113) A: Congratulations on winning the competition.

B: Thank you.

A: Was it a surprise?

B: Yes, it was a surprise. I never dreamt I would win.

夢にも思わなかった

(114) A: I heard that you are going to Japan next week. Are you excited?

B: Yes, I can't wait to see my friends in Tokyo again. 待ちきれない

(115) A: Did you tell John your secret?

B: No, I wouldn't trust John as far as I could throw him.

を全く信用しない

(116) A: Are you going to the piano concert tomorrow night?

B: Yes, I love piano music. I wouldn't miss it for the world.

絶対に --- (しない)

注

- 1) 肯定平叙文で NPI の「米語」(any more) が使われることがある。意味は「もう、今(で)は」である: *She's a grown-up woman anymore.* (彼女はもう一人前の女になった) / *We use a gas stove anymore.* (近頃ではガラストーブを使う)
- 2) ただし、断定文の *already* に対応する日本語の複数の項のうち、「前に、以前に、今までに、それまでに」は英語の非断定文の項に対応する日本語の項となることはできない。なぜなら、もしこの四つの項を上の方に挿入すると、文自体としては非文とはならないが、全体の意味が元の文の意味と遊離してしまい、次に示すように *She doesn't see him any longer* とは異なる意味の文になってしまうからである: 彼女は[前に、以前に、今までに、それまでに]彼に会っていない (*She didn't see him in the past. / She has not seen him before. / She had not seen him up to that time.*)。
- 3) しかし、このような項の中で、文語体ではあるけれども最後の「もはや(---ない)」という連語の「もはや」が否定平叙文でよく用いられる点が目立っている。したがって、口語の「もう --- してしまった」という連語に対立して、「もはや(---)ない」という連語の一部である「もはや」が日本語の否定平叙文でしばしば用いられる NPI 相当語であると言うことができよう。ただし、他方ではこの「もはや」が「もはや最後である」とか「もはや決定済み」とか「もはや決心がついていた」などという完了・結果を意味する肯定的な文脈に現れる場合もあるので、「もはや」は「---ない」という否定形を伴うことが多いとは言えるが、必ず否定平叙文に現れると言い切ることはできない。

相関的な意味を帯びて英語の断定文と非断定文に
現れる固有の項とそれに対応する日本語の項

参考文献

- Huddleston, Rodney, and Geoffrey K. Pullum. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge, United Kingdom: Cambridge University Press.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, New York, the United States of America: Longman Inc.
- 太田 朗. (1980). 『否定の意味<意味論序説>』大修館書店.
- 広瀬幸生／加賀信広. (1997). 『指示と照応と否定』（中右 実編、日英語比較選書④）研究社出版.